

特116

989

報

紐育タイムス紙所載

# 日本の恐怖

世界思潮研究會版

太平洋問題



# 始





日本の怒社

特116  
989



編者 〆リ

太平洋會議に就いて、吾々日本人が英國や米國の輿論に耳を聳く、居ると同様、英人や米人も、亦、日本の輿論、新聞雜誌の論調に、細心の注意を拂ひ、そして、種々なる作候的宣傳があるのである。過般フーバー氏の機關紙たる費府バフリックレヂヤ紙に掲載せられた「支那國際管理論」の如き、畢竟、米國の日本に對する一種の強行偵察ではなかつたであらうか。目的は支那に於ける反響に反らすして、寧ろ、日本に於ける反響を知る為だつたと解すべきではおからうか。

右はホンの一例であるが、兎も角、彼等が日本、輿論、特にいざと云ふ場合、日本國民が如何なる態度に出づべきかは、一

大正  
10.10.21  
内交



種薄気味悪き態度を以て、仔細に熟視しつゝ、あるもの、如くで  
ある。茲に譯出した『紐育タイムズ』の一記事も、亦其の一種  
であつて、日本に於ける吾々の言説か、如何に海外に影響しつ  
、あるか、又、如何に彼等が吾々の言説を観察しつゝ、あるかを  
知るべく恰好の一資料である。

一九二一年十月

論者 しろす

軍備制限の一般的問題に附随して、極東問  
題に就いて論議すべく、關係諸國會議を召集  
せんとするハステイジグ大統領の提案は、日  
本に於ける輿論を著しく沸騰せしめた。恐ら  
く是れ程日本人を騒がせた問題は、日露戦争  
以来嘗つて無いことであらう。

日本は、従来日米間の問題、而して、恐らく  
は日英間の問題に於いては、決して政治的論  
議を喜ばないわけではなかつた。然し不から、  
日英同盟更新の不調直後に、極東に關係を有



する諸列國によつて、極東問題が熟識される  
といふが如きは、彼等の夢にも思ひ及ばざら  
かつたことであらう。

日本に於ける一般の論調は、明かに斯かる  
世界的會議を恐怖するもの、如くである。そ  
は日本の将来にとつて死活的關係を有し、且  
日本が「自己の獵場」と思惟しつゝ、ある、亞  
細亞に関する諸問題が、列國の偉力に依つて  
日本に不利なるやうに決定するものと考へら  
れて居るのである。そして、一部の間に於  
其の結果、日本が孤立状態に陥るなきやを危

惧しつゝ、あるもの、如くである。

日本は日英同盟の延長に就いて、軍事上、  
明白なる困難あるを叢見して、大いに狼狽し  
た。元來、日英同盟は日本外交の樞軸として  
考へられ、又實際該同盟が日本に對して與へ  
た國際意味は甚大なるものであつた。日本は  
世界大國の一であつて、日英同盟こそ永久に  
東洋の首班國と、西欧の大強國との間に架せ  
られたる有力の橋梁であるといふのが日本人  
一般の見解であつたのである。  
送つて、多教の日本人は、今次の會議を以



て、日本の亞細亞に於ける政治的発展を抑壓し、太平洋の亞細亞沿岸に於ける日本将来の活動を拘束する、アングロ・サキソンの協調カリとし、是れが危険を豫見せずには居られたかつたのである。

尤も、日本の輿論は、軍備制限會議の提議を喜んで承引したのであつた。蓋し、その陸海軍備の維持、及、増大は、日本國民の堪へ難き重荷なのである。従つて日本は軍備制限の一事には、必ずしも異議を有する譯ではな

いが、帝夫札、上述の如く、極東問題に関し

大なる危惧心がある。茲に於てか日本は、米國に對して、該會議に於いて、如何なる政治的の問題が論議せらるべしか、豫め聴き置かんことを求めた。蓋し、日本は、之に依つて日本自身の利害關係に就いて、及、會議の一般目的に就いて、慎重審議を要すべき案件の試験的目的を製作せんとするのであつた。

然し、ながら又、進歩的なる一派の人々は、官僚政治家連の畏縮を嘲笑ひ、此の會議を以て、日本が世界の一大勢力として、の位地に進展すべき絶好の機會なりとし、大に積極論を



唱へ、同時に、日本にとつて緊要なる食料と  
原料品との、確實なる供給を要求すべく、其の  
膨張止まざる人口の捌口と、其の生産物の  
販賣市場とを發見すべく、且つ又、一般的に  
人種平等、機會均等の原理を世界列國に承認  
せしむべき、絶好の機會なりと論じてある。  
是等の人々は、此の會議を以て、日本に取  
つては千載一遇の好機として歓迎してある。  
彼等は米國も美國も、日本の位地と世界の要  
求とに對して、決して斟酌を忘るゝものでは  
なからうと信じてある。即ち、列國は、日本

が東洋諸國の盟主たる地位を認め、爾餘の東  
方諸國に於ける密接なる歴史的、及、人種的  
共通の事情よりして、既に一定の權利を獲得  
せる日本現在の状態を決して無視することには  
あるまいと信じてある。要するに彼等は日本  
は此の會議に依つて、ふい好ま状態に到達す  
べく、決してふい悪くすることにはなからうと  
信じてあるのである。  
多くの新聞紙は、大英帝國會議後、急遽進  
展せる太平洋會議召集の事に對して、特に其  
の視聽を集め、日英同盟更新の失敗原因は、



一に米國の反對に起因するも、だといふことに結論を與へて居る。彼等は軍備制限會議の開催は之を喜ぶも、然も、明白に一般政治的討議に就いては、少ながらず不安を感じてゐる。

日本の「偉大なる老政治家」にして、百二十五歳の長壽を保つべしと、自称し、常に自由論者を以て自ら任じ、且、一九一五年にかり有名なる二十一箇條の要求を支那に文附した時の内閣首相たりし大隈侯は、今次の會議に對しては、其の平生に似ず、樂觀的言説を

なして居らない。彼は日本の危機を豫言し、且、若し日本の亞細亞に於ける既得の権利が尊重確認されざる如きことあらば、日本は須らく會議より脱退すべきことを主張してゐる。日本は偉大なる内部勢力は、其の國民の強靱性と、そして今後決して減退すべくもない國民的忍耐とに結付いて軍國として振す難きものがある。彼等は國家の危機に臨んで、能く愛國的拳國一致を示し得るのである。即ち政府反對黨すら、米國に對して政府の築きた回答に賛同して、當に拳國一致、國難に對す







「われたい。斯く如く葛藤は、極東問題に絡んで必ず持上るであらうが、其の結果は支那に於ける日本の正當なる發展を阻止する」とに終るであらう。

「斯くして日本は、その増殖する人口に對して、原産物不足の困難に面せねばならぬ。勿論、日本は拒致されたる會議に参加することには異議はないが、然し、其處に極東問題を提出す必要を認めないものである。

「若し、米國が此れ等の問題に關して、その利権擴張を迫るといふならば、素より日本の

は議論を用ふる以前に、經濟的門戶開放及移民自由に對する要求を呈示するのであらう。

何んとなれば、若し、日本の権利が考量せられたいならば、極東問題を論議するといふことは、決して公平正當のことではないからである。故に、日本は此の信條を確守して進まねばならぬ。須らく原首相自ら會議に出馬すべきである。而して、單に部分的には行動の出来たい代表者を派遣する如きは非である。提案されたる會議の結末に於いて、恐らく、日本は新しく、且、重大なる政治的地位



に立到るであらうが、日本は飽くまで、高邁  
 なる人道的原則によつて、右の會議に列した  
 ければならぬ。』  
 又、他の一人の記者は曰く、『巴里に於い  
 て吾々は、原告として法廷に入つたが、華府  
 に於ては被告として入廷するものである。』と。

(完)

大正十年十月廿三日印刷  
 大正十年十月廿八日發行

東京市本郷區千代田二五  
 編輯兼印刷 野澤源之丞  
 並に發行人

東京市本郷區千代田二五  
 發行所 世界思潮研究會

電話小石川一九七一番  
 振替東京三八四二九





終

